

過去に開催したイベント一覧

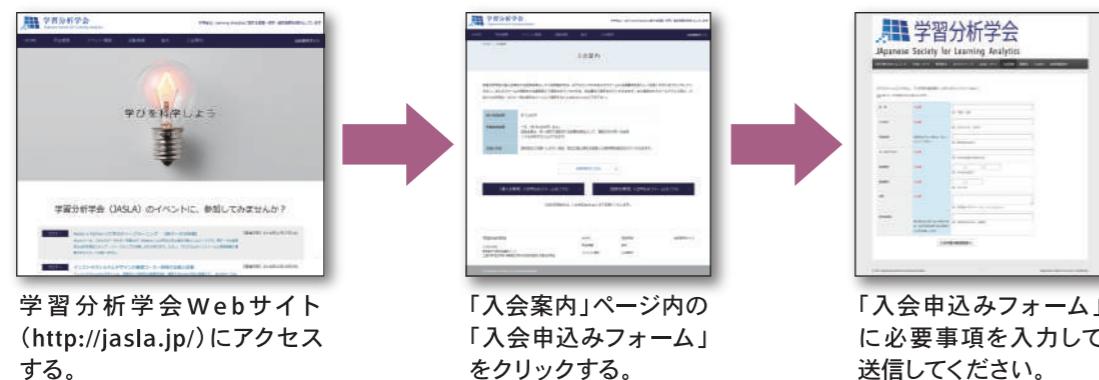
教育効果測定の基本コース／2019年度 第2回LA Meet up－医療シミュレーション教育と学習分析－／インストラクショナル デザイン基礎コース－研修の企画と改善／2019年度 第1回LA Meet up－医療シミュレーション教育と学習分析－／人材育成の基盤としての次世代LAの可能性(JSiSE LA部会共催)／Keras/Python3で学ぶ ディープラーニングによる時系列データ解析入門【実践編】／Keras/Python3で学ぶ ディープラーニングによる時系列データ解析入門【導入編】／学習分析学会(JASLA)2018年度 第2回研究会／JASLAセッション | 教育システム情報学会(JSiSE)全国大会内／LA Meet up — マイクロラーニングの概略 —／Learning Analytics(LA)合同研究会／Learning Analytics(LA)に関する合同シンポジウム／ディープラーニングによるLAワークショップ合宿／Keras x Python 3で学ぶディープラーニング【実データ分析編】／Keras x Python 3で学ぶディープラーニング【環境構築編】／MOOCs と学習分析(Learning Analytics)～シリコンバレーを中心として～／研修の効果を飛躍的に向上する「行動定着型研修の作り方講座」／教育効果測定のための「自由記述式アンケートの設計&分析」コース／統計基礎コース(推測統計:検定&分散分析編)／統計基礎コース(記述統計編)／Learning Analyticsハッカソン／ゲーミフィケーション型学習モジュールの設計方法入門／ゲーミフィケーションを体験する～「対話するトランプ」編～／デザイン入門セミナー／大学教育における反転授業の実践 -企業教育への適用を考える／部下指導のため、目標設定の見方としかた／脳科学で分析する、思考と行動！／セルフプランディング入門／人材開発白書2014 戰略実行力-周囲を動かすミドルの影響力 ほか多数

JASLA会員はこれらのイベントに会員価格で参加できます。

イベントの詳細や、その他のイベント情報についてはJASLA Webサイトをご覧ください。

学習分析学会入会のご案内

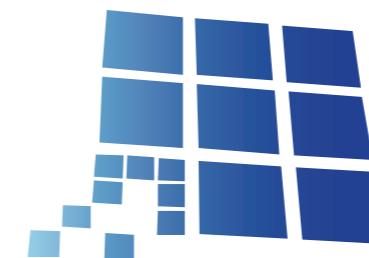
入会方法



年会費 お支払方法

	個人会員	団体会員
年会費	5,000円／年	一口(50,000円／年)以上
入会金		無 料
お支払方法	銀行振込 (後日、振込口座と期日を記載したご請求書を郵送します)	

※団体会員は、同一住所で活動される部署を単位として、複数の方が同一の会員IDを共有することができます。



特定非営利活動法人
学習分析学会
JApanese Society for Learning Analytics

学習分析学会とは、学習者に学習活動を記録・分析し、
その結果を様々な形で役立てるLearning Analytics(LA)に関する
調査、研究、普及啓蒙を目的とした団体です。

教育・学習・研修の実
践における効果の検証、
質保証、フィードバック

ビックデータ解析や統
計手法の適用、適応型学
習、人工知能応用などの
研究

Learning Analytics
(LA)を応用した、新しい
学習支援ビジネスの創

これらのことご興味ある方のご参加をお待ちしております。

2019年12月



学習分析学会 イベント開催レポート

学習分析学会では、学習活動の履歴情報に対する収集や分析方法などに関するセミナーや研究会を多数開催しています。ここから得られる知見を会員のみなさまと広く共有し、その結果を様々な形で役立てることで、今後の「より良い学び」の効果がさらに促進すると考えています。

研究会

LMS x LAセミナー

11月6日(水)に、上智大学を会場としてLMSxLAセミナーを実施いたしました。約2時間のセミナーですが、今回は初回ということもあり、LMSとLAに関する知識整理を目標とした運営を検討しました。その結果、前半は主にLMSからどのようなデータを引き出すことができるのか、という概論的な内容、後半は自治医科大学での事例を含めた具体的な紹介、という流れとしました。また、データを数値として見せる場合、グラフとして見せる場合などの方略やツールの使い方なども踏まえ、可能な限り「LMSを用いてのLAを俯瞰する」ことに重点を置いた形で組み立てた次第です。

こうした立て付けの関係で、基本は座学形式となっていましたが、参加者間の交流も加味し、途中で数回のディスカッションを挟みつつセミナーとさせていただきました。具体的には、学習分析を行いたいと考える理由・目的や、LMSで可能となりそうな学習分析の内容などについてをテーマとしたディスカッションを行いました。この結果、休み時間を含めて活発な交流・意見交換がなされていたことも印象的でした。



日 程：2019年11月6日(水)
場 所：上智大学 四谷キャンパス
担 当：JASLA理事 浅田 義和

なお、今回は募集開始後、早々に満員御礼となり、当初予定していた定員を増席しての開催というありがたい状況となりました。受講後アンケートにおいても、高い満足度評価をいただいている、裏を返せば、それだけLMSとLAとの関係性や実践方法などの内容に興味を持たれている方が多いことの現れともいえます。今後も継続的に本セミナー、およびワークショップとしての応用編セミナー(実際にLAを取り組んでみる)も検討していかなければと考えております。



研究会

2019年度 第2回LA Meet up -医療シミュレーション教育と学習分析-

日 程：2019年10月5日(土)
場 所：自治医科大学メディカルシミュレーションセンター
担 当：JASLA理事 浅田 義和

2019年10月5日(土)に、自治医科大学において2019年度第2回LA Meet upを開催いたしました。

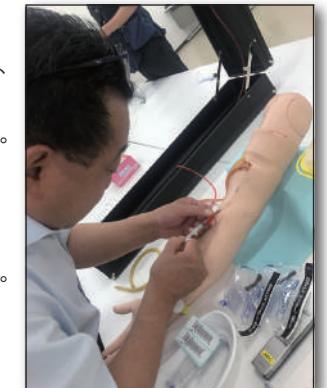
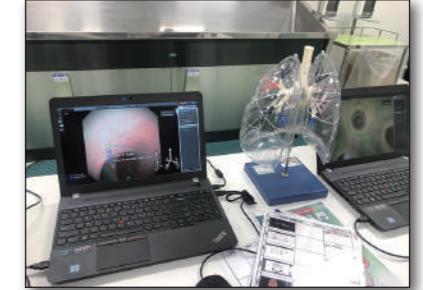
第1回に引き続き、医療シミュレーション教育をテーマとしたMeet upでは、自治医科大学メディカルシミュレーションセンター(Jsim47)を会場として、施設見学・体験を交えた会として開催いたしました。

Jsim47には様々な医学教育用のシミュレータが整備されており、マネキン人形を用いた採血の練習、VRを用いた気管支鏡検査など、その用途に応じて様々な機種を使い分けることで教育がなされています。

コンピュータ制御により音声や呼吸などをリアルに再現できるマネキンも存在しており、身体診察や救急場面の対応などに幅広く用いられています。見学だけでなく、採血をはじめとしていくつかのシミュレータは実際に体験していただく時間も設け、実際にどのような教育が行われているかを感じ取っていただきました。

その後、第1回に引き続き、特に腹腔鏡による外科手技のシミュレーションをテーマとしたディスカッションが行われました。

外科手技においては「上手にできたか否か」といった総括的評価については、行った手技の最終結果を見れば比較的容易に測定できます。しかし、学生がどのようなタイミングで、何をきっかけとして上達したか、といった変化については判断が難しくなっています。



こうした課題を解決するため、Jsim47では、学習者がトレーニングしている様子を動画で撮影し、その様子を解析することと合わせ、視線や体温などの情報を合わせて分析することで、形跡的な評価に関する研究も実施されています。

第1回のMeet upでもお話しいただいた内容ではありましたが、実際に現場の様子を踏まえて議論することで、より踏み込んだ意見交換の場とすることができます。

医療教育をテーマとした学習分析については、まだこれから発展が期待される分野の一つとして考えられます。ぜひ、また機会を見て、見学・体験を含めたMeet Upなどを企画していければと考えております。

セミナー

教育効果測定の基本コース

本セミナーの参加者属性は、8割の方が教育ベンダーや企業内研修専門機関で研修企画を専属的に進める方々でした。中には、研修企画力や論理力が十分に開発されていない方もいらっしゃいましたが、概ねセミナー参加の前提条件をクリアされた方々が参加されました。

■教育効果測定活動に対する2つの誤解

セミナー初日は、教育効果測定の基本原理と共にその精神を理解していただくことを狙いとして企画・設計しています。教育効果測定活動に対する大きな誤解は2つあります。一つは、研修実施後に検討するのが教育効果測定であるという誤解です。もう一つは、測定対象の教育効果を定義せずに、測定方法を議論するという誤解です。今回も、その2点を理解していないと思われる発言が、最初の方で散見されました。しかし学習が進行するにつれて誤解から生じる発言は、徐々に現れなくなりました。

■明確な学習目標が教育効果測定の要

教育効果測定が妥当な測定活動とならしめるための重要な要素の一つが「明確な学習目標」です。その作成方法を身につけることも初日の重要な学習事項です。学習目標の明確化方法を、インストラクショナルデザインを援用しながら事例演習を複数回行いました。普段の業務で「研修を魅力的に見せるタイトルのつけ方」や「読み手に刺さる言葉の選び方」「他社コンテンツとの差別化のための表現」等には慣れてはいるものの、学習の効果を正確に表現することは参加者全員が苦手で、単純な演習問題に四苦八苦されていました。流行言葉を用い抽象度を高め魅力的に仕上げれば仕上げ

るほど、学習のゴールが曖昧になり、教育効果測定(調査活動)が不確かな活動になっていくことを実感していただきました。

■応用演習では普段の癖が露呈

二日目は、教育効果測定を実際の場面で実施するために「調査の概要計画書」の立案を通じて、考え方やコツの習得を狙いに企画・設計しています。そのため、単純な事例を1つ、現実に近い状況を模した2つのケースを用いて、終日、演習を実施しました。最初の単純で平易な事例演習では、初日の学習内容の記憶も鮮明で全チーム(3チーム)とも、調査概要計画書を作成することができました。しかし、午後からの実例に近い状況が描かれた事例演習では、その組織が抱えている課題をうまく抽出し、研修で解決可能な範囲を設定することが怪しくなり始めました。午後一のケース演習は、講師のサポートにより全チーム、どうにか調査の概要計画書を書き上げることができました。しかしながら最後の演習では、「描かれている状況の複雑性が一層増した」「演習による疲労の蓄積が最大化した」等によって組織課題をうまく抽出できず、研修が果たすべき効果を明確に設定できないチームが1つ出現しました。組織課題の整理や研修開発の背景確認を行うことなしに、振られたテーマの研修企画が日常業務になっている方は、事例の全体像や課題を妥当に捉えることができずに困っておられました。普段の業務で培われた思考力の差が如実に表れた瞬間でした。普段から目的をキチンと確認して進めることの重要性と、同時に理論応用に立ちはだかるの壁を強く感じさせられた演習結果でした。

セミナー

インストラクショナルデザイン基礎コース -研修の企画と改善-

日 程：2019年9月26日(木)～27日(金)
場 所：アルー(株)本社セミナールーム
担 当：JASLA副理事長 堤 宇一

従来、小会が単独開催していた「インストラクショナルデザイン基礎セミナー」を、本年度はアルー社との共同運営で開催させていただきました。単独開催時の受講者属性は、6割以上が教育ベンダーに從事する方々でしたが、今回は教育ベンダーからの参加者はわずか2名様(アルー社からの参加を除く)で、7割が企業の人材育成担当者、2割の方が医療従事者という参加者の属性変化が起こりました。早速、アルー社の影響がうかがわれる開催となりました。

■業務活用を意識した質問の山

セミナー初日は、インストラクショナルデザイン(以下ID)の基礎理論を学び、それらを簡単な事例に適用し、IDの理屈と研修開発手順を一つ一つ確認していくことを狙いとして企画・設計しています。とてもベーシックな内容にもかかわらず、「学習目標の3要素のうち、どれが最も重視すべき要素か」「前提条件を満たさない学習者が研修に参加してきた場合、どのような打ち手があるのか」「学習目標は複数設定しても良いのか」など参加者の皆さんから実践的な質問を多数いただきました。ご自身の業務や業務活用を意識していることを強く感じる問い合わせでした。

次々発せられる実践的な質問に回答していると、セミナー進行が終始オセオセとなっていました。本セミナーは、定番セミナーとして長く開催していますが、講師として、参考型のワークショップのハンドリングの難しさを今更ながらに痛感した初日でした。



■論理力の差がダイレクトに表れる演習内容

二日目は、IDを実際の場面に適用するための考え方やコツの習得を狙いとして企画・設計しています。そのため、現実に近い状況を模した二つのケース演習を行います。一つは、問題を抱えたある支店を活性化させるために研修開催が検討される事例です。もう一つの演習は、問題のある研修をIDの観点からチェックし改善箇所を洗い出し、改善アイデアを整理します。各事例演習の進行は、グループに分かれ、研修企画案あるいは改善案を作成し、それをプレゼンし、提案内容を採用するかどうかをクラス全体で判定するという流れです。学習時間(ID理論に対する)、題材、作成時間、メンバー数など学習条件に差がないにも関わらず、演習作品は「クラスの70%以上が採用と判定した提案」「誰からも採用されない提案」と明暗がはっきりした結果となりました。

チームの論理力(何を前提とし、どのような理由から、どのような結論が導き出されるのか、あるいは、されたのかというプロセスを飛躍なく伝える力)の差が、作品完成度や提案内容の妥当性に大きく影響を与えます。IDをはじめとする社会科学の理論を用いるには、十分な論理力の開発が必須条件であることを、今更ながら感じさせられた演習結果でした。